中高生と考える
ごみマナーアッププロジェクト
2024

主催：「なごや環境大学」実行委員会

共催：愛知工科大学外国語学校

協力：名古屋国際中学校・高等学校
SDGs 未来倶楽部
Sus-Teen!（サスティーン）

プロジェクト概要・課題感

企業活動や暮らしの出口のごみ問題、SDGｓ達成や循環型社会の構築にも大きな影響を及ぼします。
ごみ減量や資源化ももちろん大事な問題ですが、じつは、、、ごみの出し方もとても重要。
（出し方しだいで資源化できる、できない、も違ってきます。）

モラルの問題も大きいけど、うまくごみ出しできていない人の中には、じつは単純に情報の受け取り方の多様性による発信受信不足の場合もあるのではないでしょうか。

特に外国人や、大学生活や就職において、自分で生活を始めた若い人々にとっては、うまく情報をキャッチできないまま、まわりの様子を見ながら出している人もいる様子。

名古屋市において、従来の主な広報手段である地域の回覧版や広報なごや、市のウェブサイト、外国人向きの広報紙も多々作ってはいますが、、、、、、

その情報は適切に届いているのでしょうか？？

そこで、、、、本プロジェクトでは、
うまく情報が届いていない可能性の高い外国人や若い人々を対象に、有効な情報の届け方を模索、実証していきたいと考えています。

今年度は近年市内在住が増えてきた外国人を対象に現状把握や情報発信ルートを模索しました。

はじまりはふとした会話から・・・・

日頃からSDGｓをテーマにクラブ活動を行っている、ユネスコスクールの名古屋国際中学校・高等学校の学生さんとのなにげない会話からでした。普段の活動の楽しみや取り組み状況、最近気になること、、

その中で、街を歩いている際や生活の中で気になることとしてごみマナーの話がでてきました。

名古屋市は全国に先駆けて分別文化を保ってきた地域なのですが、年月ともに、最近少し、ごみの出し方等、目につくことが多いかも、、、、

会議から生まれたわけではありません、、、中高生の課題感から生まれたプロジェクトです。

● 重ねてきたミーティング ●

＜現状調査＞
それぞれの課題感の共有。
学校研修で行くカンボジアやベトナムでの現地聞き取り調査
各家庭での（名古屋市以外の居住の学生も含め）ごみ出しルールや
悩ましいことの調査

⇒ ・国や地域によりルールや分別方法が違う
・名古屋市内でもマンション、一戸建てなどにより多少のルールが違う
分別やごみ出しのルールが守られていないところはカラス被害や悪臭等
にもつながり、物理的にも、感情的にもトラブルがでている
・どの地域にも外国人はいるが言葉の壁もありコミュニケーションが取りづらい
（文化的背景が違うのは理解しているのでどのように説明と伝えられるのか、とまどう）

＜学び＞
伝えるために名古屋市職員からごみのルールや
名古屋市として課題と感じていることについて学習

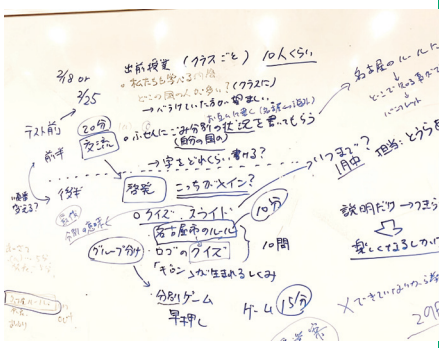
課題提起・気づき

・自分たちがごみ出しのルールを知るのは、地域社会（自治会等）や両親からの口伝や行政からの回覧等情報発信が多いが、外国人には届いていないのかも・・・

・分別やごみ出しのルールが守られないとさまざまな問題につながること（カラス問題、街の衛生や景観、収集作業員の怪我、コミュニティトラブル、SDGｓ達成や循環型社会形成への阻害、将来のごみ処分場の容量オーバーなど）

・じつは分別やルールを守りたくないわけではなく、単に正しい情報が届いていないだけかも・・・

仮説立て・検証手法の検討



情報を伝えるチャンネルの工夫。
どこでだれがどうやって伝えると効果的か・・
⇒・現在の広報ツールではむずかしそう。SNS 等はどうだろう？

・教会や外国人のコミュニティにこちらから出向いて啓発するのはどうだろう？（コミュニティでパーティーを開く習慣もあるのでそこでおこなってはどうだろう？）

・日本語学校や働いている企業に行って啓発してはどうだろう？
（中高生の目線でフレンドリーに一緒に勉強しましょう、の姿勢で行ってはどうだろう？？）

・とにかく一緒に楽しむことをしながらが良いと思う。
体を動かしながらだと効果的なので、プロギングや運動会を分別やごみ出しルールを絡めて企画してはどうだろう？？

検証手法の確定

①現状把握も兼ねて外国人を対象に意識調査や情報収集経路をアンケートを実施

②中高生による企画運営の出前講義の実施

授業の練習もがんばりました！

検証１・調査　アンケートの実施

①アンケート：
「ごみマナー・環境に関する意識調査」

1　アンケート調査の概要

1　調査の目的

本調査は、ごみ分別の重要性を広く啓発するとともに、地域における異文化理解を促進することを目的として、愛知工科大学外国語学校にご協力いただき、日本に来日して比較的間もない留学生を対象に、ごみに関する意識と行動実態などについて調査するものです。

調査は、名古屋国際中学・高等学校の生徒によるごみマナーに関する出前講義の前後で行いました。

2　調査対象者

愛知工科大学外国語学校に在学する生徒のうちから、日本語によるアンケートの回答が可能な生徒を選びました。

第一回では、ごみマナー講義の前に在籍している生徒の中から 157 名が回答していただきました。

第二回（ 事後 ）アンケートは、ごみマナー講義を受講した生徒のうち 60 名の回答をいただきました。

アンケート調査の時期と有効回答数

	調査時期	有効回答者数
第一回（事前）	２月４日	157 名
第二回（事後）	３月４日	60 名

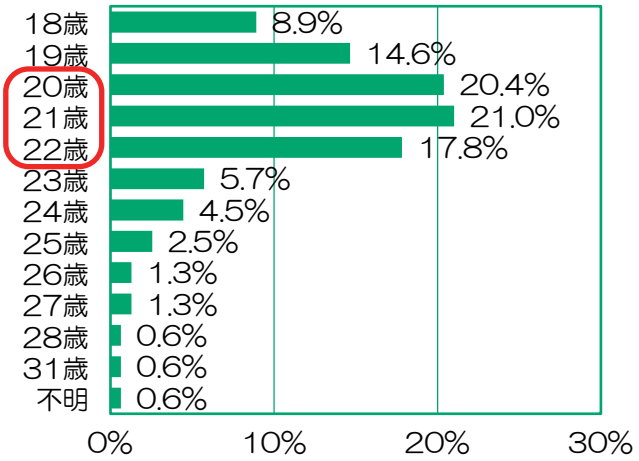
3　調査方法

教室で生徒に説明の上、Google Forms を用いて設計したアンケートに、スマホあるいはパソコンで回答していただきました。

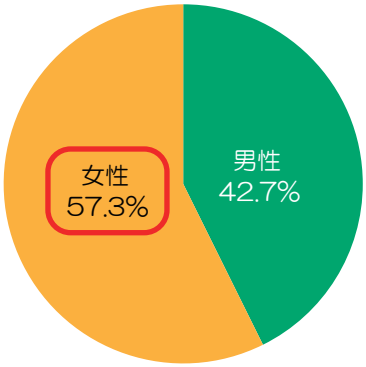
第一回（事前アンケート）

アンケート回答者の属性

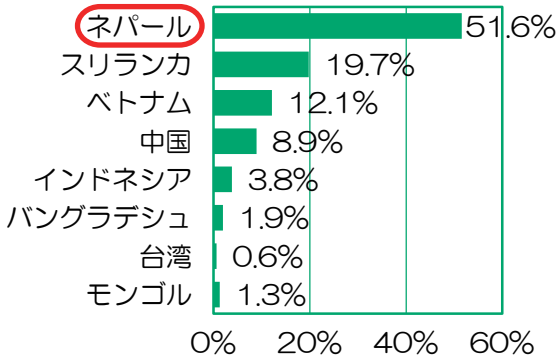
年 齢



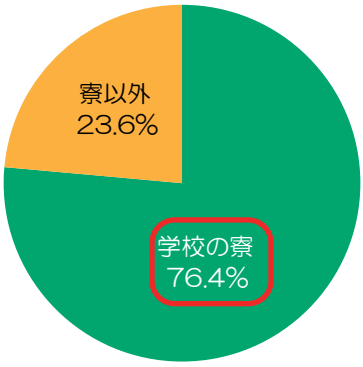
性 別



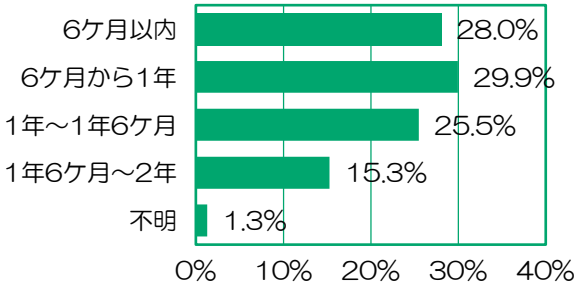
国 籍



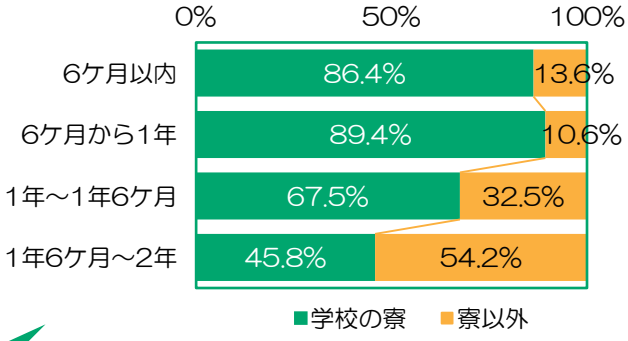
居住場所



日本での滞在



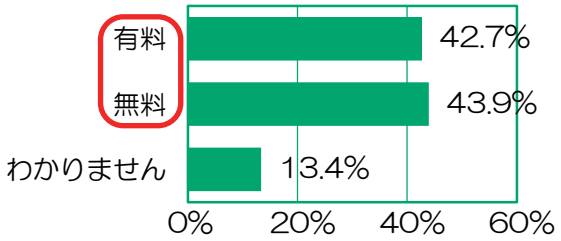
居住場所 × 日本での滞在



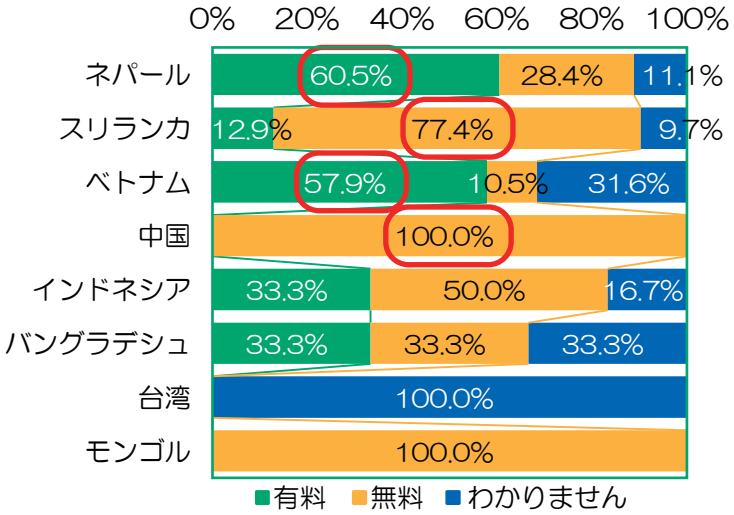
1 年を過ぎると寮を出ることもできます。

母国でのごみ収集

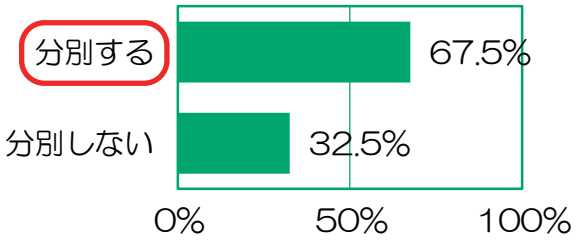
ごみ収集の有料化



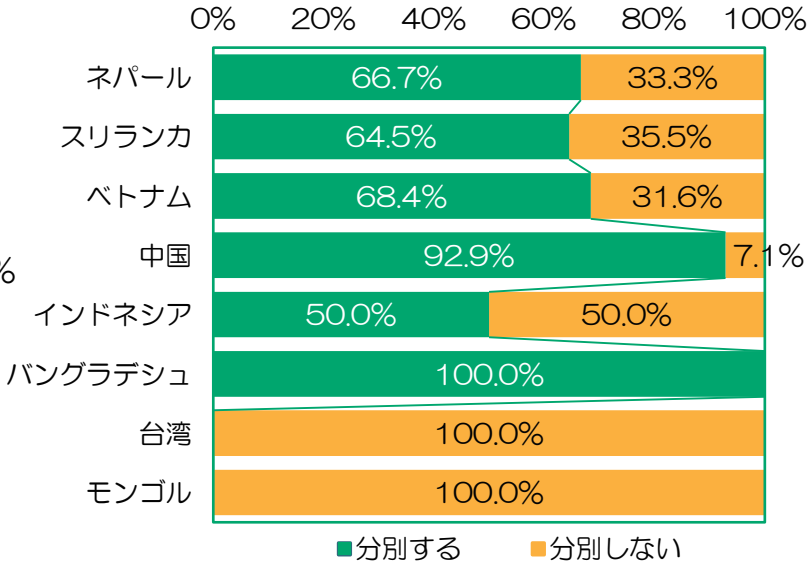
国によって有料化の状況は大きく異なる



ごみの分別回収

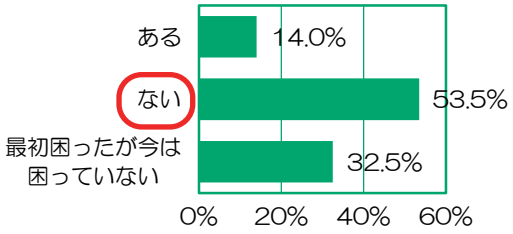


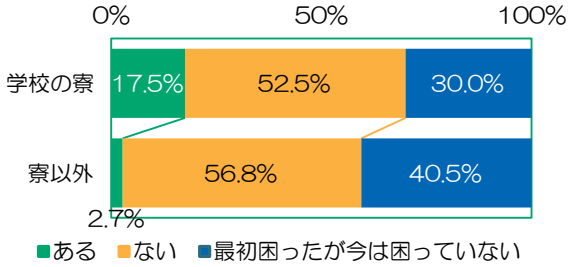
分別は多くの国で取り組まれている



ごみ出しで困っていること、わからないこと

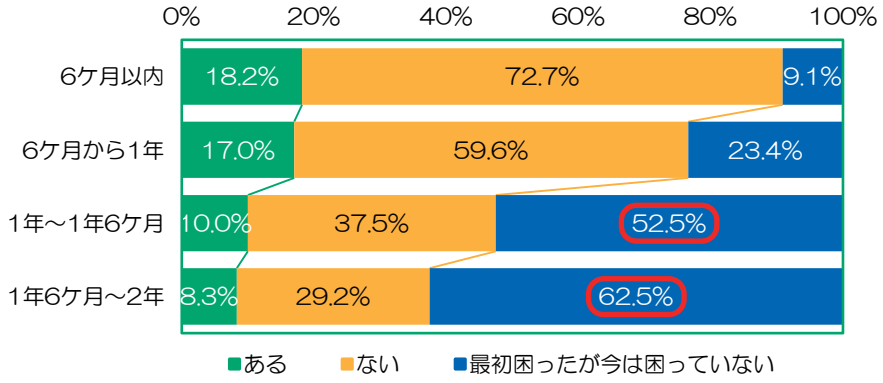
ごみ出しで困っているか



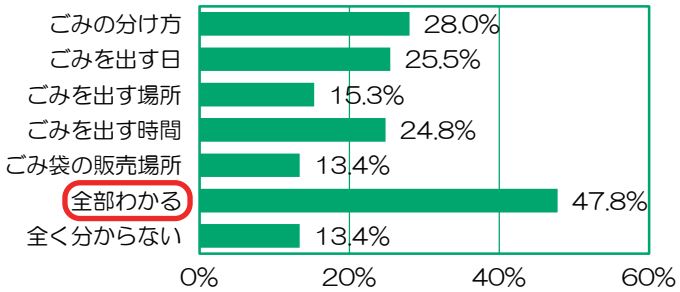


最初は困っていた人も
1年過ぎると大丈夫

寮を出た人は
ほとんど困っていません

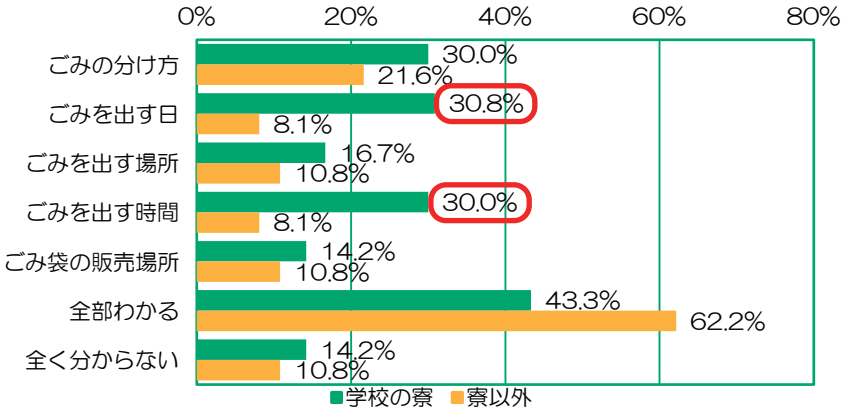


困っていること



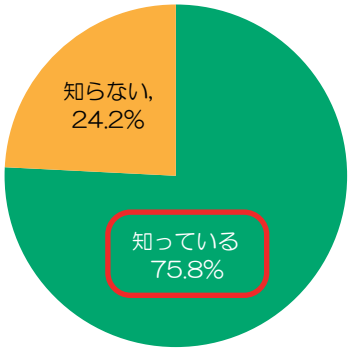
寮にいると、ごみを出す日、
出す時間がわからない

ぜんぶわかる人が半数ですが、
分け方、出す日、出す時間
はまだまだわからない

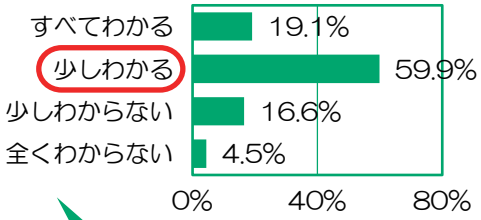


ごみ出しマナー、知っていますか

ごみ袋が有料

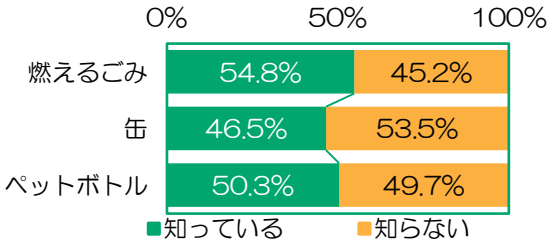


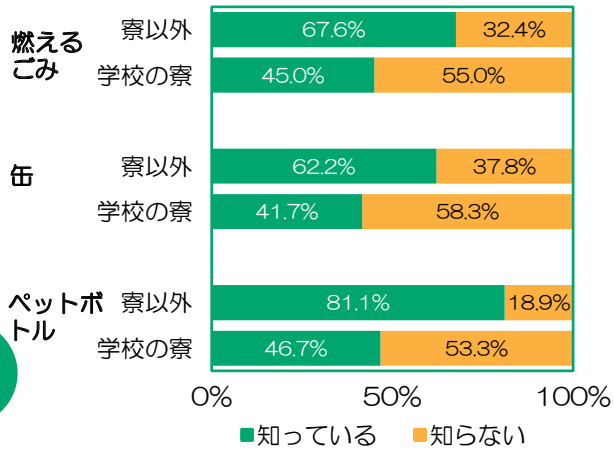
分別方法



わかるけど、完全には
理解が難しい

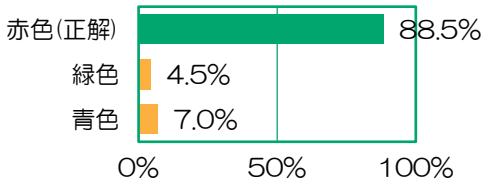
収集日



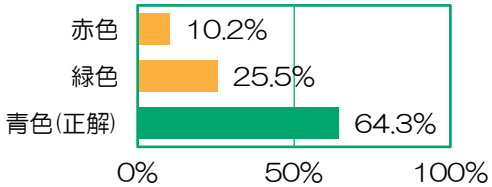


収集日は半数の人しか知らない
寮の人の認知度は４割少し

収集袋の色



①燃えるごみの袋の色

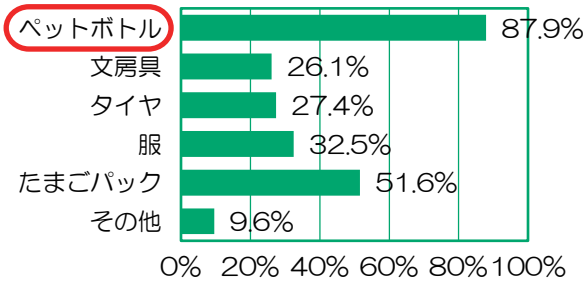


②缶の袋の色

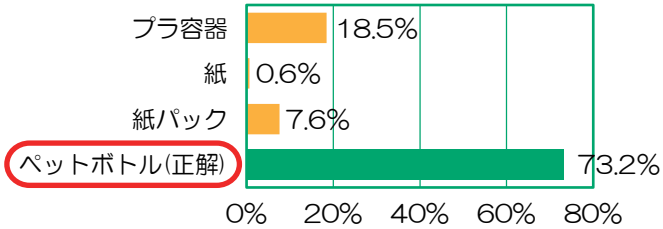
赤色の燃えるごみの認知度は高いけれども、
青い缶の袋の認知度は６割程度

リサイクル

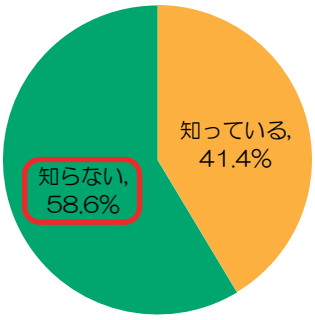
ペットボトルのリサイクル先



ペットボトルのロゴマーク



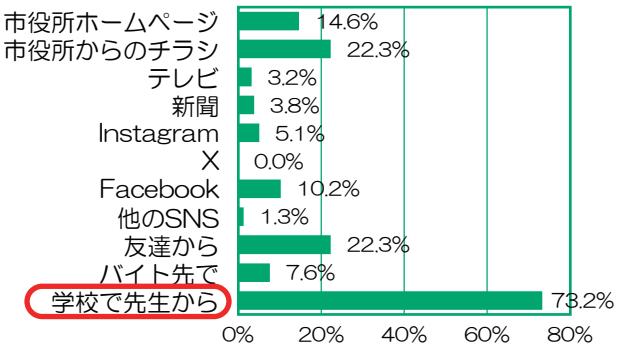
紙製容器包装のロゴマーク



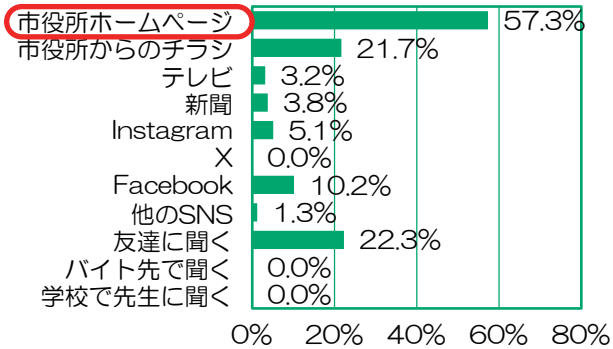
ペットボトルのマークの認知度は高いが、
紙製容器包装の認知は低い

ごみ出しルール

何で知ったか



どうやって調べるか

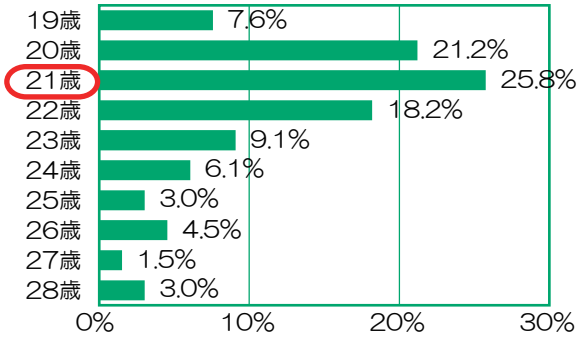


最初は日本語学校の先生から、
あとは市役所のホームページで調べる

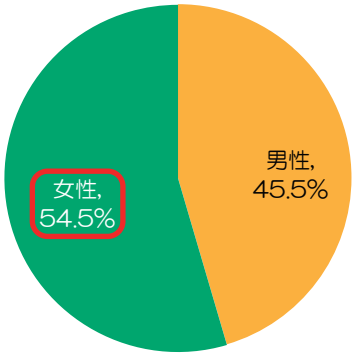
第二回（事後アンケート）

アンケート回答者の属性

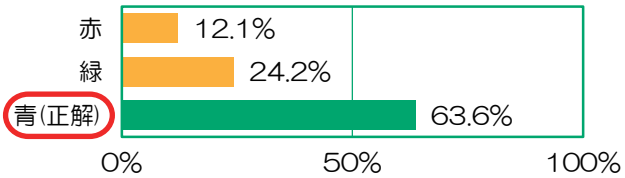
年 齢



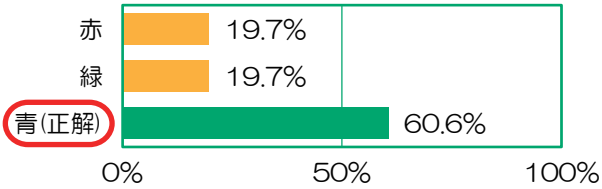
性 別



資源用袋の認知度

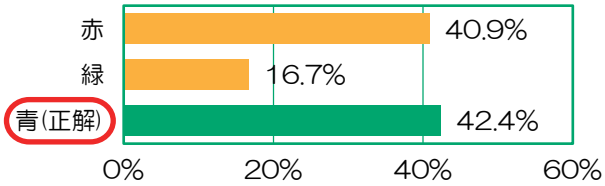


①プラスチック製容器包装



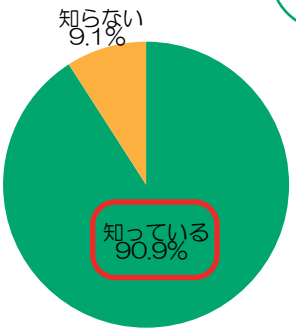
②ペットボトル

プラスチックとペットボトルは
認知度が高いが、紙製容器包装は低い

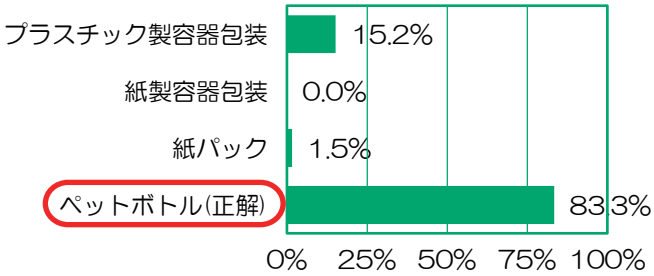


③紙製容器包装

ロゴマークの認知度

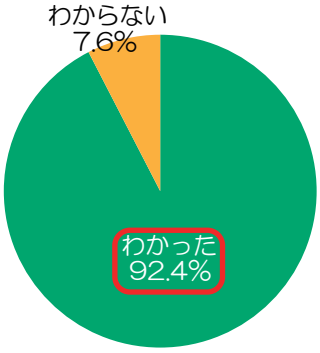


①紙製容器包装



出前講義の成果

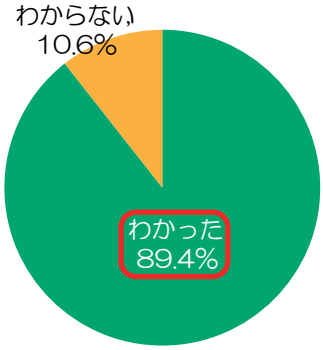
分別の必要性



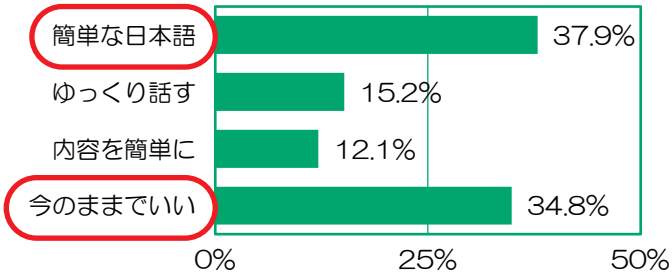
分別の必要性についての理解度は大きく向上

出前講義に対する理解度も非常に高い

出前講義の理解度



出前講義をわかりやすくする方法



出来るだけ簡単な日本語を用いることが大切

●日本で学ぶために来日した外国籍の人にとって、来日後の一定期間日本語を学ぶ日本語学校の存在は極めて大きいと推察できます。日本語学校はもちろん日本語の習得が最大の目的ですが、同時に、日本での生活者としての基本的な知識と行動様式を伝えるという意味でも大きな存在です。その意味で、ごみマナーの普及啓発の観点からも、初期の日本語学習と連携させる形で、日本語学校が使いやすい啓発資材を開発整備していくことが必要だと考えられます。

●今回の調査結果からは、ごみ出しのマナーについては、全体としては、一定の理解が進んでいるものの、燃えるごみは赤い袋に入れるという点を除くと、まだまだ課題が多く残されていることも明らかとなりました。

●分別については、燃えるごみ、缶についての認知度は高いものの、缶と同じ資源用の青い袋にいれる紙製容器包装についての理解度は非常に低くなっています。紙製容器包装、プラスチック製容器包装、ペットボトルを入れる資源用の青い袋についての啓発が必要であることがうかがえます。

●ごみ収集日についても周知に大きな課題があることが示されています。燃えるごみ、缶、ペットボトルのいずれも、収集曜日を知っている割合は50%から66%程度であり、半数近い人が収集曜日を正確に理解できていないことが、結果として、分別の不徹底の形で表面化していることも推察できます。

なごや環境大学実行委員　千頭　聡

検証２・出前講義の実施

中学生・高校生による出前講義
「ごみ分別でつながる未来」
～中高生が伝える　名古屋発のエコと異文化理解～

実施日

2025 年 2 月 25 日（火）13:50-14:35 （5 時限目 ）

目　的

ごみ分別やマナーの重要性を広く啓発するとともに、環境保全や地域における異文化理解を促進。異なる文化背景を持つ人々との交流を通じて、相互理解力の大切さを学ぶ機会にもなり、地域社会の一員としての責任感を育み、持続可能な未来づくりに寄与することを目指す。

参加者

愛知工科大学外国語学校　学生　2023 年入学生（69 名）＊日本語レベルにより設定

手　法

中学生・高校生が授業内容の組み立て、実施を主体的に行い、楽しく交流をしながら外国人留学生にクイズ形式でごみマナーや分別方法を啓発。留学生約 20 名（1 クラス）に対し中高生が 2～3 人ずつ入り、4 クラス程度実施。やさしい日本語やなるべく簡単な日本語を用いて伝える。

授業計画

	タイムスケジュール	活　　動	学習項目
導入	13:50 ～ 13:55（5 分）	自己紹介とあいさつ	授業の目的を知る。
展開①	13:55 ～ 14:10（15 分）	・交　流（用意したお菓子を食べながら） ・対話を通じた現状把握・文化背景把握	・交流を通して親交を深める。 ・自国のごみ処理との違いについて考える。
展開②	14:10 ～ 14:25（15 分）	・事前準備したスライドを用いて名古屋市の分別やごみ出しのルールについて ・なるべくシンプルな日本語で伝える ・クイズ形式で参加型に、食べたお菓子の包装の分別を実際に行ってみる	・今住んでいる名古屋のごみ出しのルールや分別方法を知る。
終結	14:25 ～ 14:35（10 分）	・まとめとふりかえり ・なぜ分別するのか ・分別やごみ出しのルールを守らないと起こる問題の共有	・問題の共有と理解促進 ・まとめ

感想　ふりかえり

　準備しながら、改めてごみの分別について知ることができました。
　ごみの分別は複雑で面倒くさく、簡単な言葉で教えるのも少し大変でした。しかし、皆さんしっかり聞いてくださり、最後の振り返りとしてゴミ分別の問題を出したらちゃんと正解していたのでよかったです。
　これかもごみの分別はもちろん、他の子にも教えられるようにもなりたいです。
　ありがとうございました。

桃羅さん
（中学校３年生）

　私自身も名古屋市のごみ分別の仕方についての理解が深まる機会となりました。学校の文化祭準備などでごみを扱う時は、ぜひこれで培った知識を活かしていきたいです。
　外国人留学生に教えることは、小学生に教えるのとは違った距離感と言葉づかいが必要でした。しかし、留学生の皆さんのフレンドリーさにすごく助けられました。とても貴重な経験となりました。
　ありがとうございました。

七之さん
（中学校３年生）

　授業をする中で生徒さんたちと仲良くなり、他の国について勉強できて、とても楽しい授業ができてよかったです。

祐次郎さん
（高校２年生）

　今回の出前授業を通して、ごみ出しのルールや人に物を伝えることについて改めて深く考えさせられました。
　僕はごみ出しのルールをあまり理解していなかったので、授業に向けて調べる中で多くのことを学びました。また、外国の方に授業をするために優しい言葉を選ぶ大切さを実感しました。普段はあまり意識していなかったことなので、とても良い経験になりました。今後の活動にも今回の学びを活かしていきたいです。

真優さん
（高校２年生）

　授業を準備する段階で、ごみの分別を学びました。自分の分別の悩みと外国語学校の生徒さんたちの悩みで共通のことがあったので親近感が湧きました。また、自分の解決方法を共有することができました。

＜部長＞　優奈さん
（高校２年生）

　伝えたい内容が自分の中でまとまらず、話しの順序が曖昧になったことで、途中で離せなくなってしまう場面があり、聞き手にとって理解しにくい部分があったと思います。ですが、今回の機会をとおして自分自身のごみに対する理解を深めることができました。
　そして、コミュニケーション能力を上げる良い経験になったと感じました。

菜奈美さん
（高校２年生）

亜紀子さん
（中学校３年生）

うまくいったこととしては、時間内に授業をおさめられたこと。いかなかったことは、途中通じてなさそうな雰囲気になったり、時間が逆にあまったこと。
面白かったことは、お菓子のごみを実際に捨てにきてもらうときに、ひっかかってくれたこと。（プラごみをすべて燃えるごみに入れていた）
改善点は、文を短く伝えること。生徒さんも、あてたらすぐに答えてくれたのでとても嬉しかったです。

一輝さん
（高校２年生）

本当に伝わってるのかがわからなくて不安だったけど最後確認した時にみんな正解してて伝わってるのかわかって安心した。

項太さん
（高校２年生）

思ったより受けなかった。
次は向こうにうける発表を考えたい。
さらにいうと参加している人としてない人が半々なのでみんなが参加するようにしたい。

アッラさん
（中学校３年生）

自分自身も日本語ってむずかしい、と思っているのに、早口で詳しく説明してしまったので、理解してもらえたか心配でした。
次はもっとわかりやすい日本語を選んでより理解しやすく進めたいです。

このたびは、出前授業の機会をいただき、ありがとうございました！名古屋市のごみ出しルールについてお話しする中で、みなさんが熱心に聞いてくださり、とても嬉しかったです！日本のごみの分別ルールは少し複雑かもしれませんが、質問もたくさんしていただき、関心を持って学ぼうとする姿勢がとても印象的でした。
私自身も、改めてごみの分別やリサイクルの大切さを考える良い機会になりました。名古屋での生活がより快適になるよう、今回の授業が少しでもお役に立てていたら嬉しいです！

瑞稀さん
（高校２年生）

外国語学校に行くことを通して、自分でもごみ分別についてわかんないことが沢山あることに気づいて、自分自身にもいい学びでした。また、教室の前に立って教えることは初めてで、生徒さんにメッセージが上手く伝わるか、プレゼンしかなれてない、アドリブで話すのが苦手な自分が相応しいのか不安でしたが、すごい生徒さんたちがフレンドリーだったためすごく楽しかったし、自分にとっていい経験だと改めて思いました。

晏慈さん
（中学校３年生）

愛知工科大学外国語学校
Aichi University of Technology Foreign Language School

風景

名古屋国際中学校・高等学校メンバー全員での記念写真

考察・今後

黒宮 祥男 先生
名古屋国際中学校・高等学校 SDGs 未来倶楽部 Sus-Teen!（サスティーン）顧問

本プロジェクトは、中学生・高校生が中心となり課題発見、計画、実践、分析、改善という一連の流れの元、多文化理解や環境保全などの社会課題解決に向けた一つの指針になったと感じました。
日本語学校という生徒たちにとって体験したことのない場で、「ごみの分別」という身近なテーマを海外の方々と考えることで、ローカルとグローバルなテーマを相互に考える唯一の内容と感じました。
そして、何よりも海外の方々と中高生が笑顔で交流をする場があっただけでも有意義なプロジェクトであったと確信しています。

平野 宜利 先生
愛知工科大学外国語学校　教務科長

本プロジェクトは、「外国人にはごみ問題に対する情報が十分に伝わっていないのではないか」という仮説からスタートし、その検証を目的としたものです。情報を知っているかどうかだけでなく、それをどう受け止め、行動に移すかという点でも、文化的背景による認識の違いが見られました。留学生にとって、ごみ分別の理解を通して日本の社会的ルールを学ぶことは、単なる異文化理解にとどまらず、国際社会における共生のあり方を考える大切な機会になったと感じています。
他方、今回の取り組みが、資源ごみ回収促進につながり、地域課題の解決に寄与することを期待しています。
また、本校は、今後もこのプロジェクトに協力し、名古屋市の持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

今年度の振り返り・到達
なごや環境大学実行委員　松本　イズミ

インタビューやアンケートのとりまとめによる現状把握や分析、日本語学校への出前講義を行うことができました。
また、アンケートの実施・分析により、日本語学校に通う学生さんたちにとっては、普段から頼りにしている学校の先生方からの情報発信が有効であること、出前講義の前後の理解度の違いにおいて、授業内での啓発の実施、学校経由での広報が有効であることがわかりました。
また、出前講義においては、中高生が実施することにより、大人が実施するよりも外国人留学生もやわらかな心持ちで受講している様子が垣間見れました。

今後について、日本語学校の先生方のようなキーマンにごみマナーの最新情報や啓発の有効なツールをお届けすること、そして今回中高生が行ったように、楽しくアクションを通して学べる講義の形式での情報発信をすることをモデル化していくことを検討し、外国人のチャンネルにあったかたちでの広報のしかたを発展的に検討していきます。

実施期間

2024 年 4 月～ 2026 年 3 月（予定）

実施体制

主催：「なごや環境大学」実行委員会
千頭 聡（実行委員 日本福祉大学国際学部 特任教授）
松本 イズミ（実行委員 フィトラボ代表 環境カウンセラー）
後藤 亮（事務局・名古屋市環境局）

共催： 愛知工科大学外国語学校

協力： 名古屋国際中学校・高等学校 SDGs 未来倶楽部 Sus-Teen!

なごや環境大学は、市民 / 市民団体（NPO/NGO）・企業・共育機関・行政が立場や分野を超えて実行委員会をつくり、協働で運営してます。

「持続可能な地球社会」「環境首都なごや」を支える「人づくり・人の輪づくり」をすすめ、行動する市民・協働する市民として「共に育つ（共育）」ことを目的としています。

なごや環境大学は、ネットワークを活かし、いろいろな知識、経験、問題意識を持ち寄り、問題解決への行動につなげています。

＜お問合せ・連絡先＞

「なごや環境大学」実行委員会 事務局

名古屋市中区栄 1 丁目 23-13 伏見ライフプラザ 13 階

TEL＆FAX：052-223-1223　E-mail：jimu@n-kd.jp